

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所としての理念に、「常にその人らしく、その人らしい、その人らしさを支えるケア」を目指すとあり、「常に地域社会との共存共栄をはかる」という地域密着型サービスの基本を掲げている。	○ グループホームとしての理念を、全職員で話し合い作りあげてゆきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念を掲げている。全職員が理念を共有する取り組みが弱い。	○ より一層、理念に基づくケアの実践にむけた取り組みを行なっていく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族にむけては家族会の機会にホームの考え方を伝えている。運営推進委員の皆さんには会議の中で理解を頂けるようにし、地域への橋渡しをお願いしている。	○ もっと理念の浸透にむけた取り組みは行なっていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	開所から1年半という事もあり、まだGHの存在は周知出来ていない。散歩の際地域の方と会話や挨拶を行なっている。近所の方に運営推進委員の誘いで行事のボランティアに来てもらった。	○ 運営推進委員のメンバーの追加を図り、より一層地域とのパイプ役として頂けるようにしたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	伝統行事（獅子舞等）を招いたり、地域の文化祭に参加したり、地元小学校の運動会の参観等している。まだ自治会の一員としての活動はしていない。	○ グループホームとして自治会に入会し、地域の一員として活動をおこなっていききたい。

ケアネットグループホームすぎか

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地元中学校の体験学習の場として受け入れている。高校生のボランティアの受け入れも行なっている。地域向けの認知症の勉強会等はまだ企画できてない。開所1年半なので、ショートステイの受け入れ体制はまだ整っていない。	○	学生の実習の受け入れは継続して行なっていきたい。地域向けの介護教室等が行なえる様、企画していきたい。
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	グループホームとしての自己評価・外部評価の意義を勉強会で理解し、職員全員で評価に取り組むようにした。	○	事業所全体で取り組み、改善に努めたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	状況報告をしグループホームの取り組み等を理解ただいている。委員よりの意見を参考にサービス向上に反映させている。	○	今回の自己評価、外部評価の結果を報告し意見交換等をおこなって生きたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居者の退所にあたり、サービスの質についての助言をいただいた。日常的には認定更新時の訪問調査の日程調整するのみであって、サービス向上に向けた取り組みは継続的には出来ていない。	○	「サービスの質の向上」に向けた取り組みを行政担当者との話し合いの機会を持ちたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、取り組めてない。	○	地域権利擁護について、研修計画を立て全職員で取り組んできたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について学習の機会を設けており、防止に努めている。	○	更なる研修、事例検討をとうし、防止に向け取り組んでいきたい。

ケアネットグループホームすぎか

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居者や家族の方に事前に見学や入居者との交流をし安心頂くようにしている。契約内容の確認とご家族の意向や希望を聞いている。</p>	○	<p>随時、ご家族の疑問、不安に対しては応えていきたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>普段の会話の中から不満、苦情、意見、希望を汲み取るよう心がけている。上手く言葉での表現の出来ない入居者も、日頃の態度、表情などから汲み取るようにしている。その情報についてはケアカンファレンスにて共有し改善に努めている。</p>	○	<p>入居者は表現することが難しい人が多い。苦情が少ない事は良い事と短絡的に考えないようにしていきたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>隔月に郵送する「ご家族へのお便り」、季刊号の「グループホームすぎかだより」発行によりグループホームでの生活、行事での素顔をお知らせしている。又、面会の際は担当者が近況をお知らせしたり、ケアについての相談、了解を得ている。毎月、金銭出納簿を発行し家族に確認をもらっている。</p>	○	<p>家族との情報交換をし、更なる信頼の確保に努めたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の面会の際情報交換の機会となる様努力をしている。運営推進会議においてもご家族の意見を聞かせていただいているケア会議等で話し合い運営に活かしている。「ご意見箱」を設けているが、周知されておらず工夫が必要。</p>	○	<p>「ご意見箱」をグループホーム内へ設置し、意見を求めホームの運営に反映させていきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月1回「職員・ケア会議」を開き運営についての説明を行い、職員の意見を聞き、皆の総意の基にホームづくりを目指している。年2回個人面接を行い意見を聞き、個々の職員の状況を把握する機会を設けている。</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者の状態、突発的状況時は状況に合わせ柔軟に対応している。勤務変更も職員は理解し協力体制が組んでいる。管理者はシフトには多くは組まず、夜間や緊急時すぐに対応できるようにしている。</p>		

ケアネットグループホームすぎか

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的には、事業所間（社内）の異動はなく固定化している。離職の際も最小限のダメージとして対応出来るよう配慮している。新しい職員が入る時には十分習らし期間を設け、入居者との信頼関係が築けるようにしている。</p>	
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間研修計画を立て年1回の研修参加を目標としている。事業所全体としては年2回の職員研修を計画実施している。又職員個人の外部研修希望については、内容を検討し希望に添えるようにしている。研修報告書の提出、会議等で報告、研修の機会としている。</p>	<p>○</p> <p>職員各自の習熟度に応じた、研修計画を立案。資格取得についての意向を確認し、事業所として奨励していく。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣のグループホームとの情報交換や訪問を不定期に行なっている。長野圏域グループホームのネットワーク化の集まりに参加し情報交換、交流をおこなっている。</p>	<p>○</p> <p>更なる、地域のグループホームとの交流を深め、ネットワークを拡大していきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>面談の機会に職員のストレスや悩みを把握できるようにしている。又日常的にも職員の間人関係に気を配り、必要に応じ相談に応じている。親睦会を開きリフレッシュの機会としている。</p>	<p>○</p> <p>職員間での食事会や、リフレッシュ活動を推奨し、悩みやストレスを把握して悩み、不満を溜めない雰囲気づくりに取り組んでいく。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>年2回評価を行い、賞与に反映させている。職員個々の成果による昇給制度も設けている。年1回の定期健康診断、年2回夜勤者健診を行い、健康管理を行なっている。職員の資格取得に向けた支援もおこなっている。</p>	

ケアネットグループホームすぎか

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居申し込みの段階より、本人の現在の状況を聞き、見学をしてもらうようにしている。本人の不安混乱を想定し、除除に慣れて頂ける様に配慮し本人の「気持ち」を大事に考えてゆく様になっている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の話をよく聴き、入居に至るまでの家族の困りごと、心配ごと、求めている事と本人とのギャップを把握しながら、信頼関係づくりをしている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の初期段階から全て入居申し込みとして受けるのではなく、「今、何が必要か」を相談の中で確認をしながら「今、必要なサービス」に繋げるようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に見学をしてもらい、グループホームの雰囲気を感じて、入居者と和んでもらいながら、時期を見極め入居してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の経験や知識が生かせるよう、日常生活の中で教えて貰う場面を多くもてるようにしている。共に過ごす時には支援する側、される側という意識を持たず和める場面づくりをしている。	○	「共に過ごし、学び、支えあう」関係を築いていきたい。

ケアネットグループホームすぎか

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の様子を折々に報告し、職員の思いを伝え、共に支えていく気持ちを共感できるように努めている。	○	職員は家族の「思い」に寄り添いながら、日々の暮らしの様子を共有し、本人と一緒に支えています。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の思い、家族の思いを見極め、外出や外泊、面会等を勧めたり、行事や家族会参加を呼びかけ家族とのより良い関係が保てるよう支援している。遠い家族からは携帯電話を預かり、連絡を取り合う事で安心してもらっている。	○	職員にお任せ「何でも結構、いいようにして下さい」と言う家族もいて、次第に疎遠となってゆくケースもある。家族関係に配慮しつつ、「家族にしか出来ないこと」を家族に理解して頂けるよう支援していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家に帰る、墓参り、親戚を尋ねるなど家族に委ねている。馴染みの人の面会等は時折あるが此方から出かけてゆく支援はまだ行なえてない。	○	昔からのなじみの関係や馴染みの商店、行きつけの場所等の付き合いを続けられるよう、出かけていく場面をつくる支援をしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の関係はこちらが作為的に築くものではないので、個々の相性による場合が多いので、職員は人間関係を把握していることが大事と考えている。お茶、食事時は職員が話題を提供し場が和めるようにしている。	○	認知症の進行やレベルにより、孤立する入居者がいないよう配慮していく。排除されるのではなく、共に助け合う関係づくりを目指したい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の施設へ住み替えられた人がいたが、特に家族からの相談等は今のところないが、家族からの相談があれば大切に答えていきたい。		

ケアネットグループホームすぎか

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や行動の中から把握できるよう努めている。意思表示の困難な人には、家族からの情報を得るようにしている。一人ひとりの思いを大切に、ケアカンファレンスで検討し反映させている。	○ 一人ひとりの「思い」を大切にするケアを目指したい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接での情報収集が不足しており、生活暦の把握は断片的なものとなっている。	○ 生活暦の把握することの意味と重要性を家族に説明し、情報収集に努めたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの過ごし方や生活のリズムを把握しながらのケアに心がけ、一日の流れを本人の姿や言葉をとうし記録をとるよう心がけている。	○ 加齢による、心身状態の変化とそれに伴う過ごし方の変化を把握しつつ、出来ない事より出来る事を見つけていけるよう努めたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者が中心になりアセスメントをし、職員全員でカンファレンスを行い、計画作成担当者がケアプランを作成している。出来るだけ本人や家族の思い、意見を反映させるようにしている。	○ 更に、本人や家族の意向、アイデアを反映できる介護計画を作成していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の状態の変化に即し介護計画の変更を考えていくようにしている。定期では、6ヶ月ごとに評価、見直しを行なっている。	○ 状況が変われば、見直しの時期に関係なく介護計画を作成しなおしている。

ケアネットグループホームすぎか

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケア記録、バイタル、食事・服薬・排泄等の記録をしている。情報の共有、確認をし勤務に付くようにし、確認サインをするようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	遠方の家族のケースや緊急受診時等事業所で対応している。ケースごとに柔軟な対応を行なうことが出来るよう体制や工夫を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	お花見外出、季節行事（やしょうまづくり・花火など）の際、民生委員やボランティアの協力をえている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	当センターの理学療法士による、リハビリ指導を定期的（毎週火・金）に受けている。訪問理容サービスを入居者の希望により利用している。	○	グループホーム内で自己完結するのではなく、他のサービス利用を受け入れ支援していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			

ケアネットグループホームすぎか

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の継続を勧め、受診は基本的には家族の付き添いで対応してもらっている。家族が不可能のときは、職員が代行し行なっている。又往診をしてもらうこともある。かかりつけ医のない人には当事業所の協力医を紹介している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じて、家族と相談の上認知症専門医への受診を勧めている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員の配置をしていないが、隣接するショートステイの看護師より相談、助言を受けている。。	○	24時間気軽に相談が出来る（深夜の発熱等の際、緊急でいくべきか、明日まで待ってもよい状況か等の判断の相談）体制を考えていきたい。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	早期退院に向け、病院関係者（地域連携室など）と情報交換をし退院後の生活がスムーズに再開できるように援助を行なった。開所1年半の間、1名入院したが2W間で退院できた。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在対象となる人は居なく、話し合い、方針は立てられていない。	○	ターミナルのあり方、事業所の対応についての運営方針を決め、本人家族が不安を持たないように支援していく。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所としての体制が整得られてない。	○	ターミナルケアに関しての勉強を行っていく。事業所として「できること・できないこと」を見極め、運営方針を立て取り組んでいく。

ケアネットグループホームすぎか

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族の要望で、ターミナルケア対応のGHへ移られた方がいたが、退所前に家族との話し合いを行い、リロケーションダメージはなかったと考えます。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライバシー保護について、常に意識し、個人情報の取り扱いについての教育を行っている。	○	一人ひとりの「尊厳を守る」という意識を高める学習を行い、徹底を図っていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常的に「聴く」ことを大切に考えている。上手く表現できない人には選択してもらえよう支援している。	○	認知症ケアの基本と言う考えのもと、より一層「質の向上」を目指したい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを大切にしながら、生活を支援していくよう配慮している。職員の都合を優先せず、入居者の生活を優先出来るケアを目指すよう心がけている。その日の天候を見ながらの散歩、畑仕事、トランプ、花札等楽しみを見つけている。	○	認知症ケアの基本と言う考えのもと、より一層「質の向上」を目指したい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着替えの選択は基本的に本人の意向で決めている。選択困難場合は、職員が見守りや必要に応じた支援を行っている。現在、訪問理容を利用している。美容院の利用も本人の意思を取り入れるようにしていきたい。		

ケアネットグループホームすざか

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		

ケアネットグループホームすぎか

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額の現金は家族の承知のもと自己管理している人もいる。食材料の購入の際は支払いを行なってもらっている。外出の際はお金を使う機会を設けているが実際には使う事をためらっていることが多い。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの状況やその日の天候を見ながら散歩、外出を行なっている。ホームの庭や隣接グラウンドへの散歩は日常的に行なっている。	○	近所への散歩に限られている事が多いため、一人ひとりの希望に添った外出が出来るようにしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間計画を作成し、四季折々の合わせ外出をしており、入居者の楽しみとなっている。外出の際は外食することもあり、楽しみの一つとなっている。家族との外出の機会は最優先と考えている。	○	年間計画も画一化せず、TV・新聞情報を得て、入居者の喜びや楽しみとなるよう支援していきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常的に電話を掛ける機会はほとんどなく、家族や知人からの電話は歓迎している。遠方の家族から携帯電話を預かっている方には時折、電話を利用してもらっている。季節の手紙（年賀、暑中見舞い）は本人の意思を尊重し無理強いせず、支援している。「絵手紙」をくださる家族もあるが、文通の支援は出来てない。	○	手紙（年賀状・暑中見舞い等）を書くことの支援を日常的に取り組んでいきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は入居者の活動時間に行っている。面会者は入居者の了解のもとであれば特に制限を設けてない。外出・外泊も自由で家族、知人の訪問を勧めている。訪問の際はゆっくり寛げる雰囲気作りをし、「おもてなしの心」で接するよう心がけている。		
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを全職員で確認し合っている。施錠や本人の意思を無視した行動制限も身体拘束と理解しケアに取り組んでいる。	○	定期的に勉強の機会をつくり、常に確認していきたい。

ケアネットグループホームすざか

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	「鍵をかける」事の人権侵害について理解している。入居者が外出するときは、さりげなく声を掛け、一緒に付き添い、安全に配慮し、自然に自由に暮らせるよう支援していくようにしている。日中は施錠していない。		
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は連携を取り合いながら、入居者の安全確保、所在確認に努めている。居室内での転倒が予測される人には、プライバシーに配慮しながら、センサーの使用し動きを把握している。定時巡視や異常時の対応も直ぐ出来るよう職員の居場所の工夫をしている。	○	重度化の進む中で、より難しくなっているがプライバシーに配慮しながら、職員の意識を高め様々な工夫により安全を確保していきたい。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要と思われる物品については入居時確認し、生活に必要な物は一人ひとりの状況に応じ使用してもらっている。薬は施錠出来る保管庫に、洗剤は安全な場所にて保管している。整理整頓に努め、施錠すべきところは確実に守れるようにしている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット・事故報告書を作成し、職員間での検証を行い解決に向け対応を行なっている。一人ひとりの状況を見極め再発防止に努めている。福祉用具を活用し事故防止に努めている。	○	日常的に事故防止に心がけ、会議や勉強会で事例検討を行い再発防止に役立てていく。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員が救急救命講習を受講した。応急手当は看護師による講習会を行なった。	○	全職員が定期的に講習会に参加していきたい。「AED」の設置も検討している。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、施設全体の避難訓練を入居者も一緒に実施している。近隣の住民に協力が得られるようお願いしてある。	○	あらゆる災害に備え、継続的な避難訓練を実施していく。

ケアネットグループホームすぎか

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時の契約の中で家族に説明を行い理解を得ている。時間の経過と共に状態の変化によるリスクが生じてくる事を説明し、理解を頂くようにしている。事業所の考えを理解頂けるよう説明を行なっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、バイタルチェックを行い、食事摂取量、服薬、排便の有無を健康管理表に記録し、異常の早期発見に努め、職員間で情報を共有し主治医と連絡をとり早期対応に努めている。早めの対応に心がけている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容については「服薬説明書」を管理し全職員が解るようにして、薬の目的、副作用、用法、用量を理解し確実な服用に努めている。病状の変化には記録、報告を行なっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘による心身の変化を理解し、排泄状況を把握しスムーズな排便の為の援助を行なっている。食事、運動等に配慮している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔清潔は三食毎に声掛けをしているが、入居者の習慣的なこともあり、口腔ケアが一日一回位となってしまう。義歯も洗浄液に浸けるのみに方もおり、全員の口腔状態を把握しての支援が出来てない。	○	口腔ケアについて学習し、個々のケアを行なっていく。歯科医の指導も受けたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量を記録し栄養の偏りやカロリー過多がないか把握に努めている。食事の他お茶の時間をとり水分摂取に心がけている。栄養バランスやカロリーについては、必要に応じ複合施設内の管理栄養士に指導してもらっている。食欲不振者には色々工夫を行い食事確保に努めている。		

ケアネットグループホームすぎか

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防のマニュアルを作成し、予防に努めている。入居者、職員は手洗い、嗽の励行を通年実施している。又、感染症予防研修への参加もしている。	○	より知識の習得に努めていきとともに、日常の中で油断しないようにしていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器洗浄機や塩素消毒剤を併用し、食器、調理器具の殺菌、消毒を行ない、衛生管理に努めている。毎日、新鮮で安全な食材の購入、管理に努めている。	○	冷蔵庫や調理器具の衛生管理をより徹底させていく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	複合施設の一角にあり近隣の人たちにはグループホームとしての認識が薄い存在である。玄関には季節折々の飾り付けを工夫している。	○	暖かい雰囲気の入りが易い玄関づくりをしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く、テラスに向かい、開放的である。庭の畑では季節折々の野菜、花を育て楽しめている。ソファやリクライニングチェアは語り合える場として利用されている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にあるソファやリクライニングチェアは思い思いに人と語り合える場として利用されている。テラスのベンチではお茶や日向ぼっこをしたりして過ごす楽しみがある。	○	

ケアネットグループホームすぎか

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には馴染みの家具を持ち込み、備え付けの家具も使用される方が多い。家具、ベッドは好みに配置し本人が居心地よく過ごせるようにしている。</p>		
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>換気は必要に応じ、適宜行なっている。掃除の際は十分な換気に努めている。温度設定は温度計を参考にしながら、入居者の体感を聞き調整を行なっている。常に外気との差が大きくなるよう調整に心がけている。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>施設全体がバリアフリーとなっており、随所に手すりが設けてある。トイレは各居室に設置しており、安全に自立した生活が支援できるようにしている。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>一人ひとりの出来る事、出来ない事、わかる事、解らない事を理解して個々の状態に合わせ援助している。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>庭には家庭菜園があり、季節に合わせた野菜作りを楽しんでもらっている。又、テラスから季節の野菜の成長を楽しむことが出来る。テラスでの夕涼み、行事（流しそうめん・焼肉・花火）、お茶等季節折々楽しむことが出来ている。外周りは広く、隣は安全に散策できる公園となっており利用している。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

ケアネットグループホームすざか

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

めぐまれた環境の中にあり、当事業所の「The Care n t Way (行動の目標)」に「その人らしく、その人らしい、その人らしさを支えるケアであること」「明るく元気にコミュニケーションをはかること」「地域社会との共存をはかること」を目指すことを理念として掲げて、入居者が「生き生きと楽しく、明るく、笑いのたえない、共に助け合い暮らす」ことを支援しています。

開所1年半ということもあり、地域との共存共栄と言う目標はまだまだこれからですが、地域の皆様に理解され、協力をいただきながら、地域のニーズに応えていけるグループホームでありたいと思っています。